

七尾市の過去・現在・そして未来……

過去を知り、現在を理解し、次へ……

七尾市は、古くから能登半島の中核都市として、特に港を中心に商業や文化の中心地として栄えてきた。

昭和20年の終戦から8年が経過したころ、町村合併促進法が制定されたことで、昭

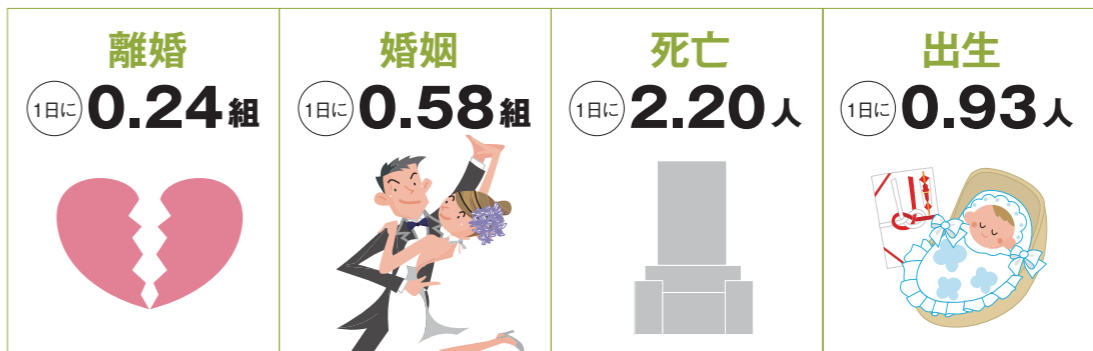
和29年に旧七尾市、田鶴浜町、中島町が誕生。そして翌年の昭和30年に能登島町が誕生した。

その5年前の昭和25年、七尾市の人口は、7万6千255人に達し、史上最大の人口を記録した。

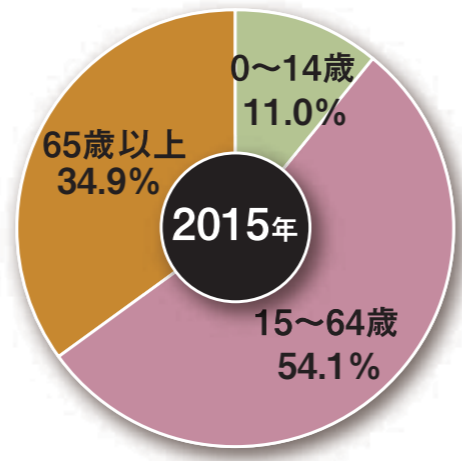
しかし、昭和25年をピークに、年平均約312人ずつ減少し、平成26年11月30日現在、5万6千257人となっている。ピーク時から1万9千998人も減少したことになる。

これからの七尾市の人口はどうなっていくのだろうか。現在の七尾市は、自然動態や社会動態に歯止めが効かない。

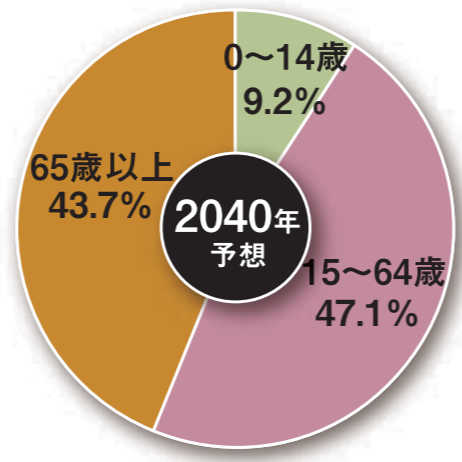
自然動態では、平成7年から減少が続き、平成25年には出生が338人に対し、死亡は803人、差し引くと465人の減少となっている。



知ってますか？
今の七尾は
こんなところ。

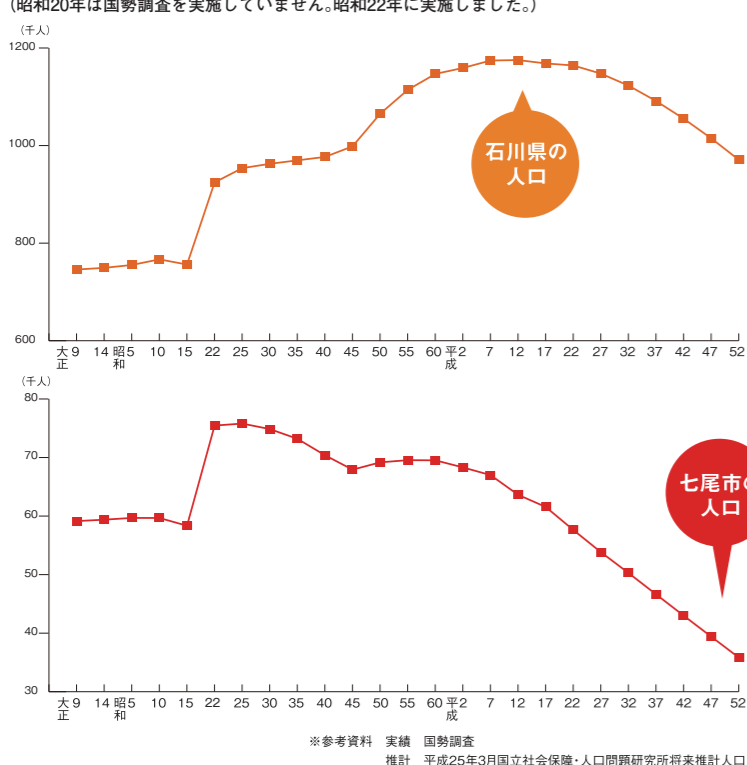


七尾市の人口比率



人口の過去と未来から見えてくること

大正9年から平成52年(26年後)の人口推移



また、社会動態では、転入が1242人に対し、転出は1568人、差し引くと326人の減少となっている。自然動態と社会動態を合わせ、年間791人が減少となり、今後も加速すると予想されている。

また、少子高齢化も急速に進んでいる。年少人口では、昭和60年に1万5千184人、平成22年には6933人で、8251人の減少。老年人口では、昭和60年に9963人、平成22年には1万7千127人で、7164人の増加となっている。

さらに、他にも人口が減少している要因がある。子どもたちは高校卒業後、進学希望

が増えている。七尾市には大学や短期大学がないため、都会へ行く若者が増える現状がある。また、都会へ進学した子どもたちや高校を卒業した子どもたちが、都会への就職希望も増えている。つまり、七尾市で生まれ育った子どもたちが成人しても七尾市に帰って来ない傾向が生まれている。

七尾市では、交流人口を拡大し、経済効果を期待する取り組みや移住定住の促進など、人口減少対策としていろいろな施策を行っているが、効果が表れるまでには時間が必要である。

そういった現状を踏まえ、市民一人一人がこれからの七尾市をどう考え、行動していかなければならないのかを考えてみたい。

※1 自然動態とは、一定期間における出生・死亡に伴う人口の動き。
※2 社会動態とは、一定期間における転入・転出に伴う人口の動き。
※3 年少人口とは、0歳から14歳までの人口。
※4 老年人口とは、65歳以上の人口。

